

行動デザインを考慮した ガイドライン付き椅子の開発

生産技術部



概要

高齢化社会の現代では、介助者が数多くの介護を行わなければなりません。そのような中、日常介護である椅子の座り立ちにおいて、介護者が目を離した際に高齢者などが椅子に上手に座り立ちができず転倒する事案が発生しています。本研究では、人間工学と行動デザインの考え方を取り入れ、高齢者などが一人で安全に座り立ちできる新しい発想の椅子を開発しました。

行動デザインと椅子のガイドライン

心理学や行動科学を活用し、人間の行動や意思決定を意図した方向へ自然に誘導する設計手法。使う人が迷わず目的の行動ができるようにします。身近な例では、病院の床に示される色線や連続手すりなどが代表。

椅子の場合、左右の手すり間に座面があり手すりから掌が離れ身体を支えることができません。本研究では、左右の手すり間にガイドラインを設け、一人でも安全に座れる椅子を開発しました（図1）。



図1 椅子のガイドライン

ガイドライン付き椅子の試作

- ①高齢者など（要介護者含む）の体型寸法を人間工学データベースの寸法を参照しながら県内の高齢者でも実測し決定しました。
- ②実際に椅子に座る動作を解析しガイドラインの高さや寸法、構造を検討しました。

③試作したガイドライン付き椅子

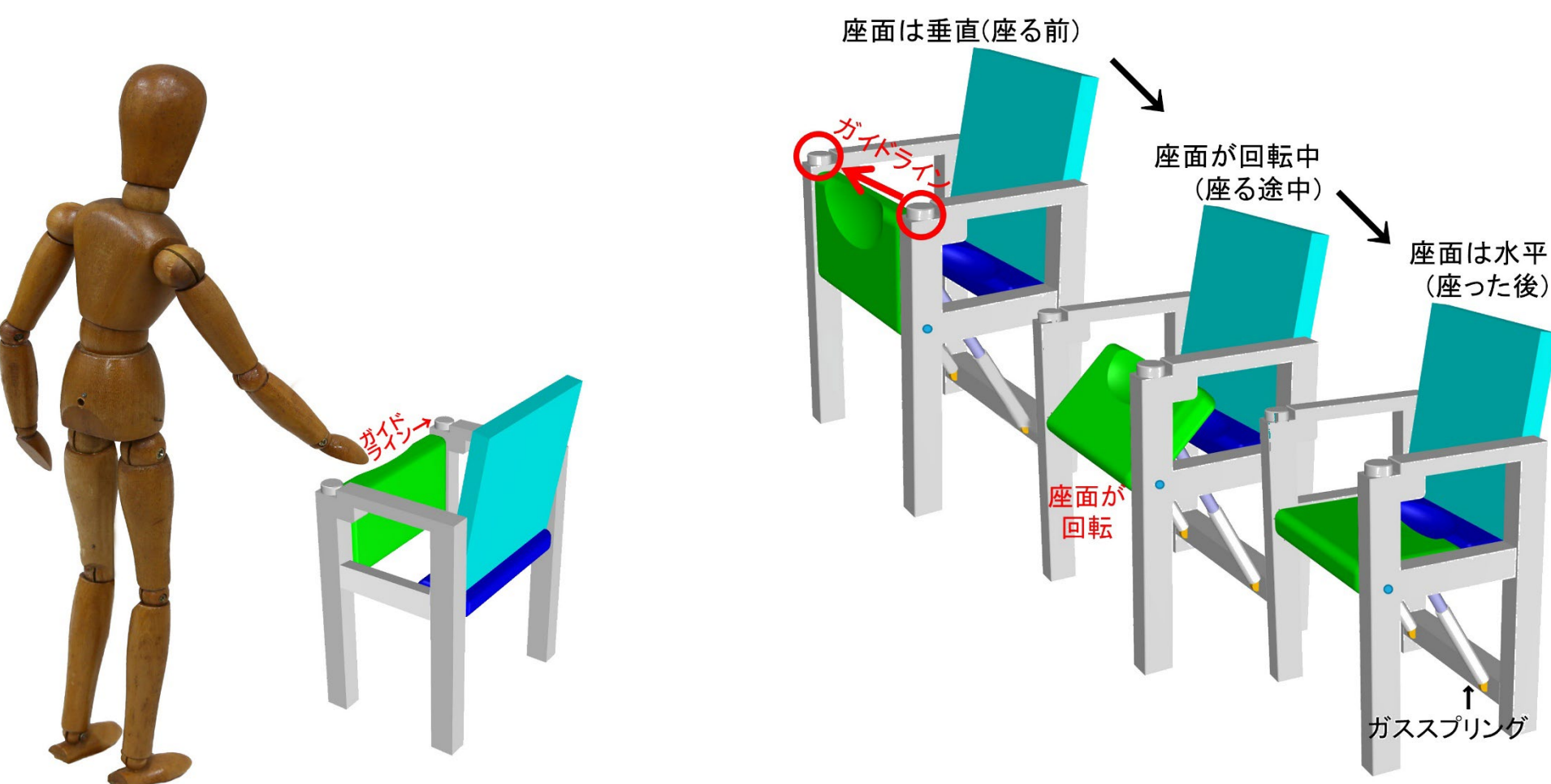


図2 ガイドラインイメージ

図3 椅子のガイドライン動作

図4 試作したガイドライン付き椅子



いちおし

日常生活の基本である椅子に座るという動作を安心安全に行えるように対策を施した椅子を開発しました。椅子のガイドラインという考え方は新規の発想です。



キーワード

行動デザイン、人間工学、高齢者、介護、介護用椅子

